会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回教員研修プログラム開発委員会 |
| 開催日時 | 令和2年8月24日（月）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾 委　員：上里　政光、岡村　慎一、植上　一希、猪俣　昇、岩切　直子　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計6名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1.委員長挨拶（上里）2. 事業計画の概要（岡村）・ICTの使用、非認知能力の開発を軸とした教員研修プログラムを開発・学習評価WG…非認知能力の評価基準の作成等・ICT活用研修WG…アダプティブラーニング教授法の確立等3. ICT活用研修プログラム開発の概要（猪俣）・目標　①デジタルコンテンツ（ICT ）を活用したアダプティブラーニング教授法の確立②その方法を習得する研修プログラムの開発　　・年度ごとの活動（令和2年度）①令和2年9月各種教育機関が取り組んでいるアダプティブラーニングに関する実態調査（アンケート調査）　②令和2年10月～令和3年1月デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニングに関する実態調査（ヒアリング調査）　　・年度ごとの活動（令和3年度）　　　デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の開発　　・年度ごとの活動（令和4年度）　　　デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法を修得するための研修プログラムの開発　　＊意見交換　　　調査・開発を進めるにあたってICTの定義を確認する必要がある。専門学校としては、生徒全員が学習成果を出せるための仕組みが必要。4. 学習評価研修プログラム開発の概要（植上）・2020－22年度の目的　職業教育で重要な「非認知能力」を評価するための教員研修プログラム　開発　⇒評価基準作成のための　①手引き　②研修プログラム・2020－22年度の問題意識1. 専門学校生・卒業生、教員にとって重要な非認知能力
2. 専門学校教育で適切(明確)に位置づけられていない非認知能力

・2020－22年度の課題設定1. 専門学校教員が非認知能力を目標・評価していくための基本的な手順の整理
2. 共通点などの抽出　汎用的なモデル化と分野ごとのモデル化

・2020年度調査について1. 非認知能力の評価基準に関する実態調査（アンケート調査）
2. 協力校への調査（ヒアリング調査、アクションリサーチ）

　　＊意見交換　　　分野としての非認知能力を明確化・評価の掘り下げ、また、生徒一人一人の非認知能力の明確化も考慮していくと良い。5. スケジュール確認・当開発委員会は第2回を令和2年11月、第3回を令和3年2月にオンラインでの開催を予定している。・11月は各WGの調査結果が出たところで開催する。・各WGは東京・沖縄を除いた委員の方々が所在している都道府県にて　対面での開催を予定。（開催方法は開催時の状況に合わせて決定）6. その他・成果報告会は、オンラインの予定。開催方法を検討する必要がある。 |
| 配布資料 | ・事業計画書・2020年度ICT活用WG事業計画・2020年度学習評価WG事業計画 |

以上